

かなであん



249-0002 神奈川県逗子市山の根1-7-24 Tel: 046-871-1863 Fax: 046-872-3485

© HP <http://kanadean.net>

『いのち』と『生命』

毎年一度は、当庵の法座で皆さまとの語らいを楽しみにして法話に来てくれている親友の早島理師が、先端医療の発展と宗教的課題の観点から『いのち』の重みを問う」という論談を宗教機関紙に載せたのでとメールで送ってくれた。

* * *

昨年2012年は、「いのち」に関する分野で二つの話題がマスコミを賑わした。一つは山中伸弥教授にノーベル生理学・医学賞受賞をもたらしたips細胞（人工多能性細胞）であり、もう一つは、新型出生前診断である。ともに先端医療がもたらした生命の操作であり、私たちの「いのちのあり方」を根本的に揺るがすものであると、これら生命科学が提示する「生命」のあり方を、仏教の説く「いのち」の考え方、すなわち生老病死の視点から検証した論説です。

その論説には、山中教授が「医学への本当の貢献を実現させなければならぬ」と、研究に専念する決意とともに、「ips細胞の実用化にともなう倫理的課題を解決するために、生命倫理関係の研究が進展することを望む」旨を

冷静に述べられたことと、生命科学が担当する役割と限界を深く自覚しているという点で際立っていて、「実用研究をさらに推し進めるが、この実用化にともなって発生する倫理的問題に自ら関わることなく、その道の専門家に委ねたい」と発言されたことに共感しています。

この発言は私も印象に残りましたが、沈滞していた日本を明るくしてくれた若き学者のノーベル賞受賞をただ喜ぶばかりのレベルに留まり、本来ならもっと以前から真剣に取り組んでおかなければならなかった重大な問題を提起した山中教授の思いはどれだけきちんと受けとめられたのでしょうか。原子力問題やTPP問題などと同様、商業ベースが先行し、先送りにされていることが危惧されてなりません。

* * *

かつて開教使として駐在していたカナダでは、宗教家の勤めとして病院への見舞い訪問というのがあったことを思い出します。訪問が許されるのは、国に認められている宗教に限りますが、入院患者カードが宗教別に整理されていて、仏教徒の入院患者が居れば見舞ったり、精神的に落ち込んだりしていると、担当医から知らせが入り、話し相手をするのも宗教家の勤めでした。そして、最期を迎える時には、家族に「医療的処置

は終わりました。あなたの教会の先生に来ていただいて下さい」と告げ、連絡を受ければ駆けつけ、家族に寄り添い、「生命」を終えて穏やかに「いのち」に還ってゆくのを見守ります。病院ではありませんが、そこには宗教的な荘厳さがあり、誰もが死を迎えるときは医療ではなく、それぞれの信仰に依っていくのだという疑いのない姿勢がありました。坊主は縁起が悪いと忌み嫌われ、身内の見舞いにも法衣を着替えなければならない日本と比べ、ありがたくも羨ましく思ったことでした。

* * *

師は、先端医療が間違いなく生かされるためには、死の問題を避け続けるのではなく、きちんと向かい合って折り合いをつける、「生き抜く力」と「死に逝く力」のバランスを一人一人が選択する覚悟が必要とされている。「生きているという事実が示す構造・機能」と共に、宗教的な「生きていることの根源的な意味」の両方がそなわってこそ、いのちを語り、いのちの重みを受けとめることができるのではないだろうか。先端医療が発展するほど「いのちの意味」を問い続けることの重要性が指摘されているが、その任務を生命倫理だけに預けるのは無理があり、それを支えてくれるのが「生老病死」を説いた仏教の教えに他ならないと結んでいます。合掌

ご案内
奏庵法座

日時

4月26日(金)
午前11時より

「真宗宗歌」
正信偈
住職法話
御文章拝読
「恩徳讃」
～*～
おとぎ

庵の谷戸も、見渡す葉山の山々も、一気に明るい新緑に包まれてきました。参道階段脇にもタケノコが頭を出し、日増しにその背丈を伸ばしています。世情は混沌としていても、変わらぬ自然の営み、息吹には、私たちの心を強くしてくれる力があります。

4月はお釈迦様がお生まれになった「花祭り」にふさわしい月です。どうぞお参り下さい。

心が洗われる
ブッダの言葉

諸仏が現れるのは喜び
正しい教を説くのは喜び
衆徒の和合は喜び
和合する人々が励むのは喜び



ご連絡

築地本願寺
親鸞聖人750回大遠忌法要
東京散策日帰りバスツアー
ご参加の皆さまへ

4月29日(月・祝日)

午前8時出発

集合場所

JR逗子駅正面向かい側
三菱東京UFJ銀行前

タイムスケジュール

8:00 逗子発 → 横々道・首都高 → 10:00 築地本願寺参→
12:20 麻布十番東京さぬき倶楽部(さぬきの食材を中心とした懐石膳の昼食) → 14:00 南青山・根津美術館(茶道具、仏教美術など、日本・東洋美術を鑑賞) → 16:00 池之端・旧岩崎邸庭園散策 → 帰路(途中大黒PA休憩) 19:00 逗子到着予定、解散

上の行程を計画しています。法要時間が早いため、時間厳守で出発したいと思っています。皆さまにはご体調を整えられ、時間に余裕をもって集合していただきたくお願いいたします。

尚、当日の緊急連絡は、
坊守の携帯
(09018858573)
にお願いします。

編集後記

ブラックアングルなど絶妙な似顔絵とコラムの山藤章二氏がこの間おもしろいことを書いていた。■夫婦ともめつきり記憶力が衰えてきたことを嘆きながら、この前もお互いにある俳優の名前が思い出せずずっとひっかかっていることを若い編集者に話したら、間髪を入れずスマホを取り出して調べ、「それは〇〇さんですよ」と教えてくれた。それで「ああそうだった」と思い出したはしたが、「そういうことじゃないだろ!!」と何だかムツときたというのである。■別に重大なことが思い出せないのではないのである。自分がかって知っていた昔の俳優か歌手の名前くらのことで、今の人気者の名前を知らないのとも質が違う問題なのだ。だいたい最近のアイドルの類は鼻から記憶に入っていないから、この先思い出そうとする必要も生まれまいだろう。■何かの話題の中で人の名前が思い出せないことは、我々夫婦でも日常茶飯事になってきたが、山藤氏も「お前もそうか」「あなたもそうなのね」で二週間ほど持ち、全然関係のない時にフツと思ひ出して、「あれは〇〇だった」「そうだった、そうだった」と楽しめたものを……、と、それが断たれたことに釈然としなかった思いを書いておられたのである。■それを読んで、解る、その気持ち共用できると笑えた。お互いが自分本位になって、会話がかみ合わなくなってきた我々年代にとって、お互いが忘れてたり、思い出せなかったり、ドジったりすることが、数少ない快樂なのである。思い出せたからと言ってどうっていうこともない事柄だからこそ、その過程がおもしろいのである。■記憶の中で一番浮かばないのが固定名刺だ。これはたぶん、思い出や記憶の中では重要な部分でないからだろうが、固有名詞は忘れてもストーリーは残っている。先日も、有名女優だったのに、最短離婚記録をもってるはずとか、相手は二流俳優だったとかは思い出すが、名前が出てこない。やはり二週間ほど後に道を歩いていて急に思い出した、池内淳子だった。この先本格的に惚けても、すぐに正解を突きつけないでほしい。 Norimaru